

平成 30 年 3 月 吉日

## 自力で生き抜くために。あなたができることは？

防災・減災啓発ショートムービー

# 『3 月 11 日を考えるから、365 日考えるへ。』

3/1 日(木)公開 特設サイト URL: <http://jrc-tsudukeru.jp/>

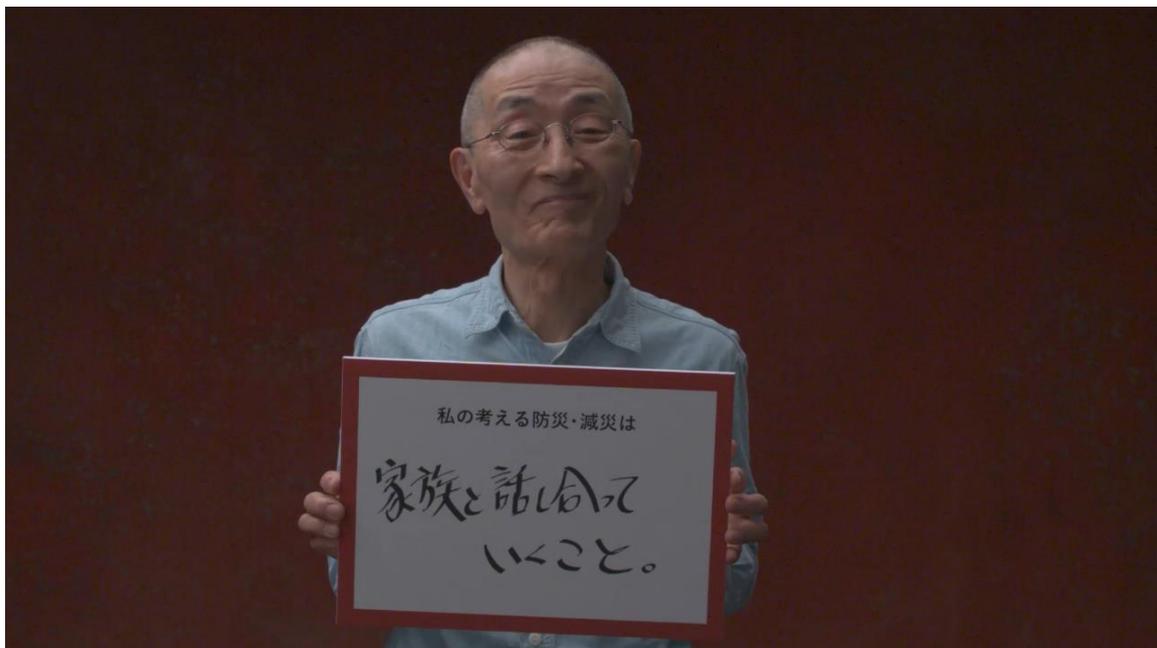
ショートムービー URL: <https://www.youtube.com/watch?v=cUD6J3dI-p8&feature=youtu.be>

日本赤十字社(東京都・港区 以下、日赤)は現在、「救うことを、つづける。」というコミュニケーションテーマのもと 3 つのキャンペーンを展開しております。この度、昨年 12 月に実施した「NHK 海外たすけあい」ショートムービーに続いて、「私たちは、忘れない。～未来へつなげる防災・減災プロジェクト～」のショートムービーを公開いたします。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の記憶を風化させることなく、災害で得た教訓や経験を生かすために、大規模災害が起きた時、いかにして自身の身を守り、協力し合って困難を乗り越えていくかを、様々な年代の男女に問うたリアルインタビューを通じて、日頃から防災・減災意識を持つことの重要性を伝えるショートムービー『3 月 11 日を考えるから、365 日考えるへ。』を平成 30 年 3 月 1 日に公開致します。

ショートムービーでは、インタビューを受ける参加者が、「現在、知っていること・すべきと想着ていること(想像)」と「実際にすべきこと・できること(現実)」には乖離があるという事実を前にして、自分なりの防災・減災について考えます。

日赤は、「救うことを、つづける。」というテーマのもと、発災直後の救護活動やその後の復興支援にとどまることなく、日頃の防災・減災に関する啓発活動をつづけていきます。



■ ショートムービータイトル:『3 月 11 日を考えるから、365 日考えるへ。』

■ 公開日:平成 30 年 3 月 1 日(木)～

■ 動画 URL: <https://www.youtube.com/watch?v=cUD6J3dI-p8&feature=youtu.be>

## ◆ショートムービー『3月11日を考えるから、365日考えるへ。』ストーリー・概要

3月11日を想うことをきっかけに、日頃からの防災・減災意識を持つことの重要性を知ってもらうため、東日本大震災のような未曾有の災害が起きた時、いかにして自身の身を守り、避難所での生活を乗り越えていくかを、様々な年代の男女に問うたリアルインタビューを実施。避難所で体験するだろうことをイメージしてもらい、実際に東日本大震災で起きた事実を前にしたとき、自分が想像したことと実際に起きた現実には乖離があることを感じてもらいました。この動画を通じて、3月11日に東日本大震災のことに想いを寄せるだけでなく、これから起こりうる災害への備えについて、日頃から考えることが大切であることを伝えています。

ショートムービーは、「3月11日を考える」とのテロップから始まり、「大地震が発生しました。あなたはどこへ避難しますか？」という災害発直後の行動に関する質問と「避難所に着いたらどんなことをしますか？」という避難後の質問が参加者に投げかけられます。これに対して参加者は「近くの学校」や「地区センター」などそれぞれが異なる回答をしています。そして最後に、参加者へ「消防も警察も被災し、3日以上助けに来ることができない場所もありました。」などの3月11日での出来事と地域の人たちと助け合いながら避難所生活を送った方の経験が伝えられます。参加者は予想もなかった事実を、目を見開き驚いた様子で、「自分の危機感の薄さ」や「恥ずかしい」といった言葉を口にしていきます。

「現在、知っていること・すべきと知っていること」と「実際にすべきこと・できること」には乖離があるという現実を知ること、防災・減災意識の大切さを学ぶショートムービーです。

3月11日を考える。



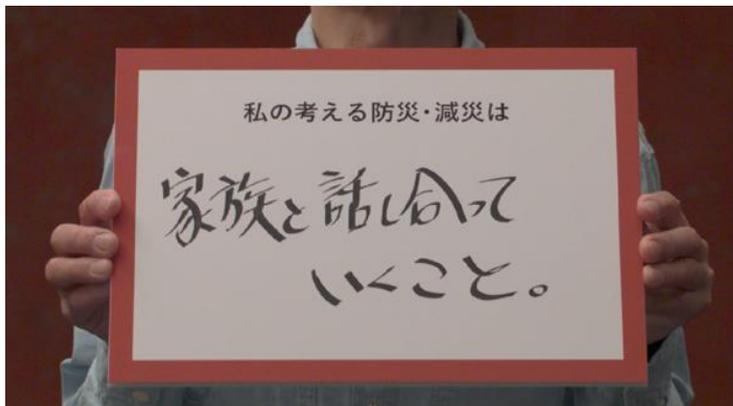
消防や警察も被災し、  
3日間は助けに来れなかったそうです。



私の考える防災・減災は

家族と話し合えて  
いくこと。

3月11日を考えるから、365日考えるへ。



ショートムービー『3月11日を考えるから、365日考えるへ。』ストーリーボード

No		No	
1	3月11日を考える。	13	
2		14	避難所に着いたら、
3		15	telop 避難所に着いたら、 どんなことをしますか？
4		16	
5		17	トイレは
6		18	探しますね
7	大規模が発生しました。	19	
8	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？	20	頂きにいきます
9		21	飲み物を
10		22	
11		23	勝手に出てくるような イメージなんですけど
12		24	
	telop 3月11日を考える。		あるので
	telop 大地震が発生しました。		避難所に着いたら、
	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？		避難所に着いたら、 どんなことをしますか？
	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？		寝る場所とかそういった 座ったりする場所を確保
	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？		トイレは
	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？		探しますね
	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？		配給の毛布を
	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？		頂きにいきます
	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？		飲み物を
	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？		貰えるだけもらいたい
	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？		勝手に出てくるような イメージなんですけど
	telop 大地震が発生しました。 あなたはどこへ避難しますか？		自衛隊の方かな

No		No	
25	 が配布にくるのかな	37	
26	 30分から1時間くらいでくるんじゃないかなと	38	 telop 毛布がなく、寒さで眠れない日が続きました。
27	 水や食事に困らないようなイメージでいます	39	 telop 避難所を運営するのは、役所ではなく自分たちでした。
28		40	
29	 3月11日での体験談をお伝えします。	41	
30	 はい	42	 telop 地域の人たちと助け合いながら避難所生活を送った方の経験をお伝えしました。
31	 消防も警察も被災し、3日以上助けに来ることができない場所もありました。	43	 自分の危機感の薄さ
32		44	 恥ずかしいです
33	 来ない… これない…うん	45	 認識が甘すぎます
34	 自分のスペースは、幅わずか80cm。プライベートはありませんでした。	46	 辛くてあんまり考えないようにしていたことも、しっかりと
35	 トイレは、誰も清掃せず汚物で溢れていました。	47	 考えなくちゃいけないなって思いました。
36		48	

No		No			
49		telop あなたの考える防災・減災は？	60		
50		私の考える防災・減災は	61		
51		生きること 助け合うこと	62		防災とかのことで
52		そういう状況にあるのは 自分だけではなくて そこにいる沢山の人がそうなので	63		話し合うことは ありませんでしたので
53		1人も ひとりにしない	64		今日にでも 話そうと思います
54		人と人が一緒にいれば	65		telop 3月11日を考えるから、
55		心も安らいだりとか 入ってくる情報も違うと思うので	66		telop 3月11日を考えるから、 365日考えるへ。
56		水、トイレの備えです	67		防災・減災プロジェクト ロゴ telop 私たちは、忘れない
57		災害を知ること	68		2011年3月11日に発生した 東日本震災で犠牲になられた方々 のご冥福をお祈りするとともに、 被災された皆さまに 心よりお見舞い申し上げます。
58		人を想いやることです	69		日本赤十字社 ロゴ telop 救うことを、続ける
59		私の考える防災・減災は 今すぐ 防災心が重要!!			

「私たちは、忘れない。」～未来へつなげる防災・減災プロジェクト～ 概要

「私たちは、忘れない。～未来へつなげる防災・減災プロジェクト～」は、今もなお、被災地で苦しんでいる人に想いを寄せると共に、災害で得た教訓や経験を生かし、将来起こりうる災害に対応する力を育んでいく活動です。

この活動は日赤だけでなく、さまざま企業・団体様にこの想いに共感いただいております。オフィスや店舗でのプロジェクトリーフレットの配布や従業員によるプロジェクトバッジの着用など、「私たちは、忘れない。」の合言葉のもとで、日本全国で活動しています。

キャンペーン期間：平成 30 年 3 月 1 日(木)～平成 30 年 3 月 31 日(土)

<プロジェクトポスター>

36,022 校

日本赤十字社は、つづける。  
 次なるつづきとする人びとへの奉仕を、  
 救世を為しつづける防災・減災活動を。

みだしたことはありません。  
 自然のいのちを守る力と、人を助けたいやる心を育む  
 防災教育プログラムを全国 36,022 の学校に届けました。  
 あの日にあつたことごとく。

これからも、つづける。  
 人を救うこと。

救うことを、つづける。

日本赤十字社  
 Japanese Red Cross Society

私たちは、忘れない。

<プロジェクトリーフレット>

救うことを、つづける。

日本赤十字社

3.11  
 未来へつなげる  
 防災・減災  
 プロジェクト

私たちは、忘れない。

未来へつなげる  
 防災・減災プロジェクト

Q 「志願や活動が起す次第、産む前に防災緊急避難訓練まで自分ごとができるはず。」

まず、自分が  
無事であること

防災教育を通じて、防災意識を高め、  
 危機感を持つ子供を育てたい。

日本赤十字社、プロジェクト推進事務局の支援を受け、  
 防災教育プログラムを全国 36,022 の学校に届けました。  
 防災教育が起す次第、産む前に防災緊急避難訓練まで  
 自分ごとができるはず。

A 実際の善文は、「私たちは、忘れない。」特設サイトでご確認ください。

共に、たすけあい  
支え合うこと

日本赤十字社の活動を通じて、  
 防災・減災意識を高め、  
 危機感を持つ子供を育てたい。  
 防災教育プログラムを全国 36,022 の学校に届けました。  
 防災教育が起す次第、産む前に防災緊急避難訓練まで  
 自分ごとができるはず。

Q 「大切な人が、先妻で心折れ亡くなってしまった時、正しい心算衛生ができますが。」

## ◆日本赤十字社とは？

赤十字は、アンリー・デュナン(スイス人:第一回ノーベル平和賞受賞者)が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界 190 の国と地域に広がる赤十字社・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。日本赤十字社はそのうちの一社であり、西南戦争における負傷者救護で初めての活動を行って以来、国内外における災害救護をはじめとし、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。

### <日本赤十字社年間ポスター>



### <日本赤十字社年間ステートメント>

日本赤十字社は、つづける。

災害現場でのいち早い救護活動を。

いのちを守る身近な医療活動を。

尊いいのちをつなぐ血液事業を。

人に寄り添うボランティア活動を。

地域に根ざした福祉活動を。

生きる力を支える看護師の育成を。

140年前の西南戦争で、

両軍の救護をきっかけにはじまった赤十字運動を。

これからも、つづける。

人を救うことを。

救うことを、つづける。